（別紙３）

公表　事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援　すきっぷADVANCE			
○保護者評価実施期間	令和7年2月15日		～	令和7年2月25日
○保護者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	6名
○従業者評価実施期間	令和7年2月15日		～	令和7年2月28日
○従業者評価有効回答数	（対象者数）	6名	（回答者数）	6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	野球支援・外出支援	礼節、他者理解、公共の場でのルールやマナーを意識的に行っている。また、外出支援では将来の選択肢を増やしていけるよう企業訪問等も行っている。	目標を明確に提示し、意欲や自信へと繋げていく。外出支援では常に新しい外出先を模索していく。
2	分かりやすいスケジュール	時計カードを使用し実際の時計と見比べることで見通しがつきやすいよう配慮している。また、スケジュールには行動のイラストをつけ、何をおこなうべきかを分かりやすく提示している。ゆとりを持った時間設定を行うことで、こどもたちが確認しながら自身で取り組めるよう工夫している。	視覚のみではなく、耳での情報で動けるよう支援方法を模索していく。
3	活動内容の変更や持ち物連絡、送迎時間の変更などの連絡事項がスムーズに行える。	書面配布とSNSでの発信を併用し行うことで、連絡の遅れがないようにしている。	保護者さまや内容に合わせ、連絡ノート、電話連絡、SNSなど、発信方法を変えて対応していく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	一部職員間の情報共有が薄い。	情報共有の薄さを勤務形態の違いや、午後のミーティングの時間を十分に確保できないせいにしてしまっている。	どの職員も適格な引継ぎを行えるよう、朝会時などでは要点を確認する。 日頃から端的に報告するよう意識することで、時間が取れないときにも正しく引継ぎを行えるようにする。
2	職員によって支援や業務に対して消極的。	自分の意見を言わずに意見がでるのを待ったり、活動の際に自ら動くのではなく指示を待ったりしてしまう。	役割分担を明確にし、各々が積極的に行動や発言をできる環境をつくっていく。
3	こどもたちをどのように楽しませていくか	日常の活動や自由遊びの中で、こどもたちを楽しませる動きが足りない。	こどもと同じ目線に立ち、全力であそぶ機会を増やしていく。小さなできたを見つけ褒めることで自信へとつなげていく。